

4 調査に関するQ & A

(1) 調査について

【Q1】

従来の調査と県学力・学習状況調査とは何が違うのですか。

【A1】

従来の調査は、学力を正答率で表すことが多く、調査年度の児童生徒の学力の現状を把握することには適していますが、実施年度が異なる調査の結果を比較しにくいという課題があります。

そこで、県学力・学習状況調査では、問題の難易度を考慮に入れて学力を測定する、つまり、「どれくらい難しい問題に正答できたか」という視点を加え、小学校4年生から、中学3年生まで、児童生徒たちの学力が伸びていく様子をより明確に示すことができるようになっています。

【Q2】

県学力・学習状況調査の調査問題は、原則として非公開とされていますが、なぜですか。

【A2】

経年での伸びを測るために、同一の問題を年度を越えて出題する必要があることから、問題を原則非公開としています。

県学力・学習状況調査は、OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）や、TOEIC、TOEFL などと同様の調査手法を使っており、こうした調査でも問題は原則非公開となっています。

なお、県学力・学習状況調査の類似問題等を基に作成した「復習シート」を県教育委員会ホームページに掲載しています。このシートは、家庭や学校で「学習した内容がしっかり身に付いているのか」の確認や、「一人一人の学力をさらに伸ばす」ことに利用できます。

(参考・県教育委員会ホームページ)

県学力・学習状況調査の「復習シート」について

<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/images/fukusyuusi-to.html>

(2) 個人結果票の見方について

【Q3】

同じ正答率の場合、同じ学力レベルになるのですか。

【A3】

同じ学力レベルにならない場合もあります。

県学力・学習状況調査の問題は、正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかでレベルが決まります。

例えば、AとBの児童生徒が同じ10問を解答した場合に、Aが一番易しい問題を1問間違えて、残りは全て正答し、Bが一番難しい問題を1問間違えたとします。この場合、正答率で考えると、AとBの学力はいずれも90%で同じということになりますが、本調査においては、より難しい問題に正答できているAの学力レベルの方が高くなります。

【Q4】

学力レベル7で考えた場合、小学校4年生の学力レベル7の児童と、
中学1年生の学力レベル7の生徒の学力は、同じと考えてよいのでしょうか。

【A4】

県学力・学習状況調査の「学力のレベル」については、学力レベルが上がるほど難しい問題を解く力があると考えています。小学校4年生のレベル7と中学校1年生のレベル7では、正答できる問題の難易度は同じです。

ただし、小学校4年生の学力レベル7の児童が中1のレベル7の問題を解けるかという
と、解けない可能性が高いです。これは、学習指導要領により学習内容が定められている
ため、中学校1年生のレベル7の問題を小4の児童はまだ習っていないためです。

【Q5】

学年の中で、レベルの数値が1上がると、該当学年内でのレベル数値は低くても
「大きな伸びが見られた」とコメントされていますが、なぜですか。

【A5】

本調査では、どの学力レベルの中でも、数値が伸びているのであれば、児童生徒一人一人に伸びを実感させ、自信をもたせることが重要と考えています。

そのため、昨年度の自分と比較して、難易度が1レベルでも高い問題を解けるようになったことを「大きな伸び」と捉えてコメントしています。

【Q6】

中学2年生での学力レベルが5（中学2年生の中では一番低い学力レベル）の場合、学力レベル5より下のレベルがつけられない状態になっています。
この場合の学力レベルは、どのような基準でつけているのですか。

【A6】

中学2年生の調査において学力を測定できる問題の範囲は、レベル5からレベル11と設定しています。レベル5の問題に1問でも正答していれば、レベル5の学力がある可能性があるため、レベル5に位置付けられるようになっています。この場合、レベル5を明らかに下回るのは、正答数が0問の場合であり、その場合は、レベル自体が表示されないこととしています。

（3）個人結果票の返却について**【Q7】**

個人結果票を児童生徒に返却する際、どんなことを伝えればよいですか。

【A7】

本調査は、過去の自分の学力と現在の学力を比較できる設計となっています。一人一人の児童生徒に対して、学力の変化の状況についての適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと思います。

学力が伸びた児童生徒に対しては、1年間の頑張りを認めたり、褒めたりすることで、自信を持たせてください。

また、学力が伸びていない児童生徒に対しては、教育相談などを行うことで、つまずきや悩み等を共有し、取組について丁寧な見取りなどを行うことで、今後の学力向上につなげてください。

児童生徒の解答状況については、「教科の領域別正答率」の数値やレーダーチャートを参考にしてください。調査問題については、本調査の設計上非公表となっていますが、県ホームページ上に「問題概要」や「復習シート」（類似問題）を掲載しているので、それらも活用してください。

返却する際、保護者も同席している場合には、可能な限り時間をかけていただき、個人の「学力の伸び」や児童生徒のよさや課題を丁寧に伝えてください。そのうえで、伸びたところをほめたり、認めたりするとともに、苦手領域を中心に家庭学習を充実するよう伝えるようにしてください。

(4) 結果帳票について

【Q8】

帳票の「26_学力の伸びの状況」の見方についてです。
線の傾きは何を表していますか。

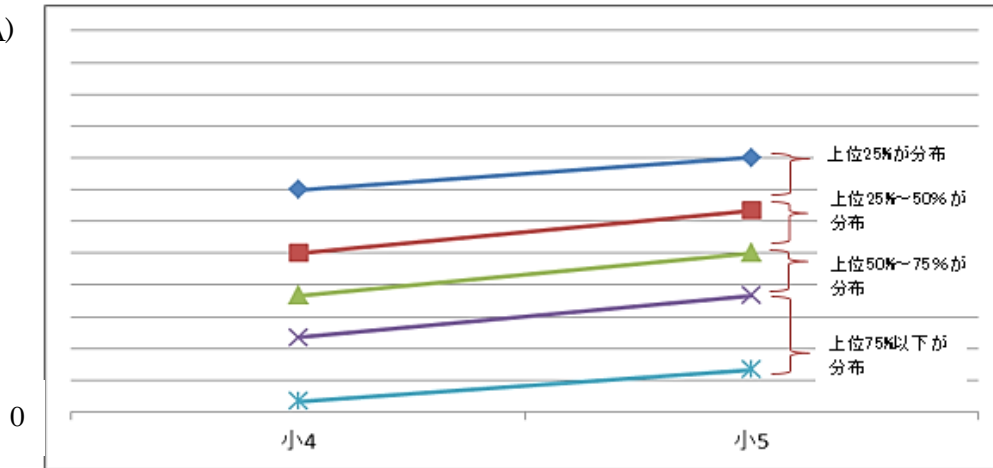
【A8】

この帳票では、同学年の集団の中で、特定の位置にいる児童生徒（75%値に位置する児童生徒、中央値に位置する児童生徒、25%値に位置する児童生徒）の前年度と今年度の学力を示しています。

前年度のそれぞれの位置を、今年度と比べることによって、この集団の学力分布の変化が分かります。

【グラフの見方】

36(12-A)



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

グラフの縦軸は、学力レベルを表しています。

目盛りは、個人結果票の学力レベル（1 2段階）を表しています。

各レベルの間は、A, B, Cの3段階に分かれています。

よって、全体では3 6段階（1 2×3）になります。

